第２学年２組　道徳科学習指導案

１　主題名　みんなでつかう　ものだから〔内容項目C－（１０）：規則の尊重〕

　　　＜教材名　「黄色いベンチ」＞（出典：「きみがいちばんひかるとき道徳２年」光村図書）

２　ねらいとする価値について

　　児童が集団の中の一員として生活するために、集団や社会の様々な規範を身につけていくことは欠かせないことである。集団の一員として生活するにあたっては、みんなが安全かつ安心して生活できるように、一人一人が公共の物を適切に扱う必要がある。自分の思いのままに行動するのではなく、自分以外の人も気持ちよく生活できるように、公共の物や場所を大切に使おうとする気持ちと態度を育みたい。

３　子供の姿

本学級は、学校や学級のきまりを守って生活しようとしている児童が多い。みんなで学級のきまりを守れるように、お互いに声を掛け合う姿も見られる。1学期、「チャイム席」をみんなで守れるように学級で取り組んだ際に、「みんなできまりが守れると、気持ちよく授業が始められるね」と話す児童もいた。このように、他律的にきまりを守るのではなく、自他共に気持ちよく生活するために、自分ができることやきまりを守る必要性を考えられる児童を増やしていきたい。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 家庭や地域と連携した教科学習計画 | | |
| 月 | 教科 | 内　容 |
| ５  ６  ９  10  11  １  ２  ３ | 生活  道徳  生活  道徳  道徳  生活  道徳  生活  生活  道徳  国語  国語  道徳  生活  国語  道徳 | 「学校探検」  「しょうかいします」  Ｃ（1４）学校生活  「花ややさいをそだてよう」  道徳「ありがとうの手紙」  Ｂ（７）感謝  「おでこのあせ」  Ｃ（１２）勤労  「町にははっけんがいっぱい」  「黄色いベンチ」  Ｃ（１０）規則の尊重  「花ややさいをそだてよう」  「おもちゃを作ってみよう」  「公園のおにごっこ」  Ｂ（６）親切・思いやり  「あそび方をせつめいしよう」  「おばあちゃんに聞いたよ」  「生まれるということ」  Ｄ（１７）生命の尊さ  「ありがとうをとどけよう」  「ありがとうをつたえよう」  「ありがとうの絵」  Ｂ（７）感謝 |

４　教材と指導について

本資料の「たかし」と「てつお」は、泥だらけの靴で公園のベンチで遊び、汚してしまう。二人のように、つい遊びに夢中になり、まわりに迷惑をかけてしまった経験のある児童は多く、共感的に二人の気持ちを考えることができるだろう。その後、そのベンチに座った女の子のスカートが汚れてしまうのを見て、「はっ」とする二人の思いを話し合う。その中で、「公園のベンチは何のためにあるのか」と問うことで、ねらいとする価値にせまりたい。振り返りでは、児童の身近な公共物や公共の場所の写真を提示し、それらのものをみんなで気持ちよく使っていくために大切なことは何かを考える場を設ける。

５　地域と連携した学習

生活科「町にははっけんがいっぱい」で、校区の公園や公共の施設、校区のお店などを訪れ、自分たちの生活が様々な人や場所と関わっていることを学んでいく。本時では、訪れた場所や身近な施設、地域の人々との関わりに触れることで、地域に親しみや愛着をもって、地域の一員として、適切に行動しようする姿を育んでいく。

５　本時の学習

(１)本時のねらい

登場人物の気持ちを考える中で、公共の物や場所は、自分以外の人のことも考えて使うことで、自他共に気持ちよく過ごせることを理解し、それらを大切に使おうとする心情を育む。

(２)本時の流れ

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時間 | 児童の活動 | 〇伝え合うための工夫  ・その他の手立てや留意点 |
| つかむ（５） | １ 「みんなでつかうもの」はどんなものがあるか考える。  ・学校の遊具や掃除道具はみんなで使うものだね。  ・町探検で行った公園の遊具もみんなで使うものか。  ２ 本時のめあてをつかむ。  「みんなでつかうもの」を使うときに大切なことを考えよう | ○校内のものだけではなく、地域にある公共物や公共の場所にも意識が向くように、「みんな」にはどんな人が含まれているか確認する。  （導入の工夫） |
| 深める（35） | ３ 「黄色いベンチ」を読んで（P８８の４行目まで）話し合う。  ベンチにのって、何度も何度も飛行機を飛ばしている二人は、どんな気持ちでしょう。  ・遠くまで飛んで良い気持ち  ・もっと遠くへ飛ばしたい  ・楽しくてやめられない  ４　続きを読んで、話し合う。  「はっ。」として顔を見合わせた二人は、どんなことを考えたのでしょう。  〈A自分たちについて思ったこと〉  ・ベンチに乗らなければよかった。  ・夢中でベンチが汚れたことに気付いていなかった。  〈B女の子に対して思ったこと〉  ・女の子に謝ろう  ・女の子に悪いことをしたな  〈Cみんなに対して思ったこと（公共の意識）〉  ・次に使う人のことを考えていなかったな。  ・みんなが使うものを汚してはいけなかった。  ・大切に使うと自分もみんなも良い気持ちになる。 | ・登場人物の様子や気持ちの変化を分かりやすく提示するために、パネルシアターを用いて読み聞かせをする。  ・「ひくいところじゃつまらないよ」という言葉に注目させ、ベンチに上がった理由を共感的に捉えられるように、センテンスカードを板書する。  ・二人の気持ちを考えられるように、ワークシートに表情を載せ、吹き出しに自分の考えを書くようにする。  ・誰に対しての気持ちなのかが分かるように、「A自分」「B女の子」「Cみんな（公共の意識）」に分けて板書する。  ○本時のめあてにせまるために、「きまりがなければ、自由に使ってもいいのか」「公園のベンチは何のためにあるのか」と補助発問をする。  （話し合いを深める工夫）  ・補助発問に対して一人一人が考えを持てるようにペアで対話する時間を設ける。 |
| 振り返る（５） | ５　みんなの場所を利用するときに大切なことは何か振り返りをする。  ・次に使う人のことを考えて、きれいに使いたいな。  ・元にあった場所に戻さないと、みんなが困るね。  ・みんなで大切に使うと、気持ちがいいね。 | ○児童にとっての「みんなのもの」を利用する場面を考えられるように、学校の遊具や町探検で訪れた場所の様子を写真で提示する。  （振り返りの視点） |